

奨学金: JEES 日本語教育普及奨学金(日能)
大 学: 立命館大学
名 前: カン ヘイン
国 籍: 韓国

私は、ネイティブレベルの日本語が駆使できるように日々欠かさずに努力することを留学の目標としてきました。その結果、幸いにも日本語教育普及奨学金に選ばれ、日本語学習にもっと力をいれるきっかけになりました。

私は、受給が決まってから1年間、主に3つのことを一生懸命努力しました。1つ目は、綺麗な標準語の発音やイントネーションを覚えることでした。週3回ほど発音の練習をしながら、日本人に矯正してもらい、さらに日本語の発音やイントネーションにはどのような特徴があり、外国人が母国語の訛りを出さずに、自然に日本語を話すためにはどのようにすればよいかに重点を置き、練習に取り組みました。

そして、2つ目は、日本語教育学を受講し、もっと専門的な日本語を学習しました。この授業を受けることで、日本語の文法・音声・語彙など日本語教育に必要とされる基礎知識を取得し、外国人がよく間違える日本語をより分かりやすく説明するためのスキルを身に付けることが出来ました。

最後に、JPT 日本語試験への勉強に力を入れました。JLPT 日本語能力試験よりももう少しビジネス日本語に近い特徴を持つこの試験を勉強することで、様々な形式や表現の日本語に触れるとともに高得点を取ることができました。

これからの日本語学習においては主に2つ考えています。まず、もっと様々な日本語の資格に挑戦してみることです。今までは、日本語を単に外国語の1つとして勉強し、自分のレベルを知るために外国人向けの日本語試験を受けていました。しかし、ネイティブレベルの日本語が駆使できるように努力するという目標を叶えるためには外国人だけではなく、日本人も受験する日本語試験に挑戦すべきだと思い、卒業するまで1年間日本漢字検定を勉強することを決めました。

次に、学内での日本語学習も続けていくつもりです。今まで日本人と発音やイントネーションの練習をしたおかげで日本での就職を考えている私にはとても自信がつかれました。また、日本語教育の授業を受けることは、日本語のレベルを上げるだけでなく、どうすればいかに学生たちに分かりやすく教えることができるのかと日本語を教える立場から考えさせられ、非常に良い経験となりました。

そのため、卒業後、日本語教育能力検定試験の資格を無事に取得し、日本語教育に携わる教員になることを目指し、これからも日本人との1対1の練習と日本語教育の受講を両方とも頑張っていきたいと思います。